

2012年度 幌尻岳の山岳環境保全活動報告、課題と改善策の提案

高橋 健（日高山脈ファンクラブ事務局長）

1 第1回幌尻岳清掃登山&幌尻山荘排泄物人力運搬事業結果報告

主 催 日高山脈ファンクラブ
後 援 北海道日高振興局 日高北部森林管理署 平取町 平取町山岳会
日 時 2012年8月12日（日）
会 場 幌尻岳ヌカビラ登山口・取水ダム・幌尻山荘
参加者 6名（男性5名、女性1名）
内 容

（1）幌尻岳ヌカビラ登山口仮設トイレチップ協力金回収

登山口トイレの協力金（2011年9月19日から2012年8月12日まで）は7,269円で、協力金箱設置後、最大額となった。設置後、はじめて千円札が数枚も投函されていた。

ただし、運営経費は2年間で約4万円の経費がかかるため、経費を協力金で賄うことは、不可能な状態である。

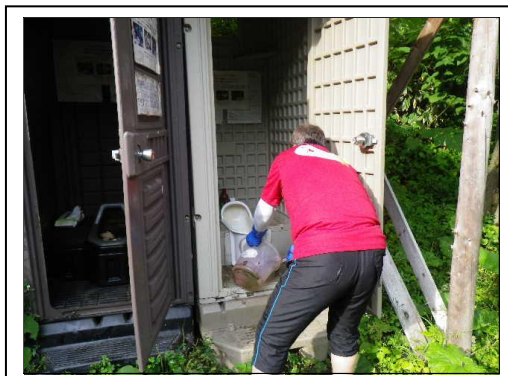
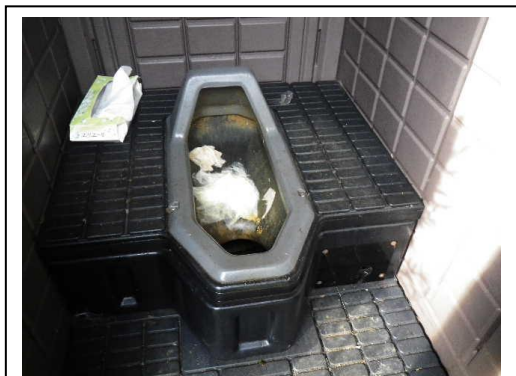
※登山口トイレ運営にかかる経費

- ・トイレ設置敷地使用料 国有林野使用料 3,000円／1年間
- ・トイレ便槽排泄物汲取料・出張経費 33,000円／概ね2年に1回



（2）幌尻岳ヌカビラ登山口ゴミ回収及びトイレ清掃

登山口のゴミはほとんどなかった。使用者による清掃を呼びかけ、トイレ脇に清掃用具を設置している。沢水を引水した水道が新たに作られており、掃除がしやすくなったが、相変わらず使用方法が汚い状況であり、さらなる啓発活動が必要である。



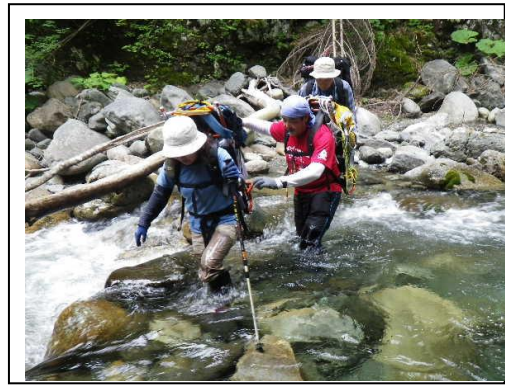
（３）幌尻山荘排泄物汲み取り・密閉作業

山荘屋外流し付近の水力発電機及びバイオトイレはこの時点ではなんとか稼動していた。幌尻山荘屋外にある貯留式トイレの排泄物をひしゃくで汲み取り、缶に入れておいた２重のビニル袋へ投入した。３人一組で作業を行った。異常なほどの悪臭が漂っているが、参加者はもくもくと作業をしている。汲み取りと密閉作業を行い、小分けにして一斗缶に収納し便槽を空にした。一斗缶に収納できない排泄物は、収納タンクに汲み入れた。



（４）幌尻山荘トイレ排泄物運搬

総運搬量は75kgでした。5缶運搬できないものがあり、第2回事業で運搬した。麓（平取町振内地区）まで軽トラックで運搬し、平取町管理の公園トイレ便槽に排泄物を投入し、ビニル袋はもえるゴミとして処理した。缶は水洗いした。



2 2012年第2回幌尻岳清掃登山&幌尻山荘排泄物人力運搬事業結果報告

主 催 日高山脈ファンクラブ

後 援 北海道日高振興局 日高北部森林管理署 平取町 平取町山岳会

日 時 2012年9月15日(土)～17日(月・祝)

会 場 幌尻岳ヌカビラ登山口・取水ダム・幌尻山荘・登山道・七つ沼カール

参加者 参加者20名(平取町山岳会・開発職員含む)＋幌尻山荘管理人(1名)

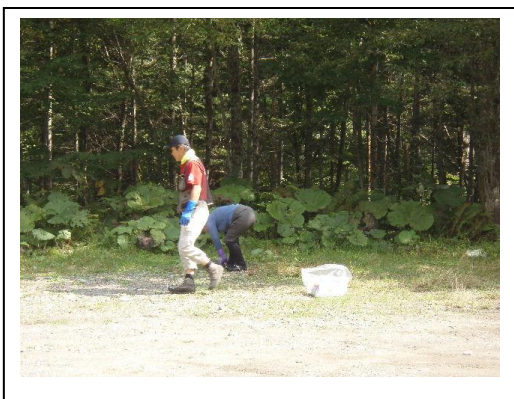
内 容

(1) 幌尻岳ヌカビラ登山口仮設トイレチップ協力金回収

登山口トイレの協力金(2012年8月12日から9月15日まで)は2,746円でした。

(2) 幌尻岳ヌカビラ登山口ゴミ回収及びトイレ清掃

一般車両の入山が禁止され、シャトルバスの終点として使われており、ごみの量が激減しているが、まったく無くなったわけではない。



（３）幌尻山荘トイレ排泄物汲み取り・密閉作業



（４）登山道・七つ沼カール清掃作業

ここ数年、悪天候のため実施できていなかった、山荘上部の登山道と7つ沼カールの清掃を行った。ところどころに点在しているトイレ跡のティッシュを回収した。ゴミの量は減少しているが、やはりまだまだ散見された。また稜線やカールは、日高山脈国定公園特別保護地区、日高山脈森林生態系保護地域保存地区の網がかかっている。七つ沼カールもちろんそうだが、キャンプ跡地がいくつもあり、新しい焚き火跡がいくつも見られた。





(5) 幌尻山荘トイレ排泄物運搬・処理作業

ここ数年連続で参加協力をいただいている開発職員・平取町山岳会員の参加が今回もあった。今回の最大重量運搬は、今野聖二さんの28.5kg、次いで開発職員の高橋和政さんの27.5kg、片倉久司さんと工藤嘉高さんの27kgと続き、73歳の鈴木貞信さんが19.5kgも運搬した。総勢21名で約360kg（中身だけ）を運搬した。

運搬量は皆さんの力量の個人差があるので、それはさして重要なことではなく、それよりも汲み取り、人力運搬という、人がもっとも嫌がる作業に参加するという意識、そして実際に参加されたという行為に対し、深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



3 課題と改善策の提案

水力発電機が故障してバイオトイレが動かないという状況が続いていたが、夏山登山シーズン終了後に、機器の交換修理が行われたそうなので、来シーズンの水力発電機器の順調稼動を期待したい。

来年以降、バイオトイレが順調に稼動しても山荘トイレ・仮設トイレの利用はなくなる。それは設置基数が少ないからだ。

管理者である平取町役場には、利用料金値上げによる受益者負担＝ヘリ運搬、または地元土建業者等による人力運搬の検討を早急にして欲しい。1000円値上げ×利用者3千人＝3百万円で運搬代は捻出できる。受益者＝ほとんど道外在住者は、排泄物がボランティアによる人力運搬されていることは知らずに幌尻山荘を利用している。さらに山荘利用者の大多数を占める道外在住者は、(過去の当会のアンケート調査により)1500円という山荘利用料が安すぎると感じているわけだから、利用者が減るから利用料の値上げはできないという意見が、もしあるとすると、それは的外れである。

山岳環境を守っていくための対価を受益者に負担してもらう方法を検討することはいいことだと思う。いつまでもボランティアが運搬するのはできないと感じている。

ファンクラブとしては、もともと実施していた清掃登山を拡大し、早池峰山の人力運搬の方法を事務局長である私と幌尻山荘管理人の稲垣さん(当時はファンクラブ理事、現在は副会長)が現地で体験し、アレンジして幌尻山荘で2005年から実施して今年で8年。

今回を含め、延べ291名にもなる多くのボランティアのご協力により約3,596kgもの排泄物を運搬してきた。

ファンクラブでは今後も、排泄物がある限り、その他の方法が取られないのであれば、排泄物を野山に捨てないために人力運搬を継続したいと思っている。

ただし毎年のことだが、実施は予定である。バス代や参加者の保険料、ビニル袋などの消耗品といった経費は、助成金で賄われている。そのため助成金がなければ、この事業は実施できない。今年は(財)自然公園財団の公益信託自然保護ボランティアファンド活動金で実施できた。

毎年、7月の連休は天候不順となること、また宿泊に伴い運搬量が増加できないことから、今年度同様に来年度も、8月に日帰りで排泄物運搬を実施し、9月連休に七つ沼カール清掃を兼ねて排泄物運搬を実施したい。

また、登山口トイレについては、設置場所を国有林から借りて設置している。任意団体が財産を所有して管理するというのは難しいと感じていますので、行政機関での引き受け手がいれば、無償譲渡したいと思います。